

子宮頸がんは予防接種で 予防することができます

～子宮頸がん予防接種について正しく知りましょう～

子宮頸がんは主に20～40歳代の女性に多く発症し、
日本では、毎年約1万人が新たに子宮頸がんと診断され、
約3千人が亡くなっています。



子宮頸がんってどんな病気？

子宮の入り口にできるがんです

自覚症状はほとんどありませんが、進行すると次のような症状
が現れます。

- ・茶色のおりものが増える
- ・月経に関係のない出血がある
- ・下腹部の痛み
- ・性行為の際に出血する



図：日本産科婦人科学会より引用

将来の妊娠・出産に大きく関わる病気です

進行した場合は、子宮を摘出しなければなりません。たとえ早期発見で子宮の温存が可能な手術が
できたとしても、その後の妊娠における流産・早産のリスクは高まります。

20～30歳代の
若い世代の女性に
増加しています

妊娠・出産年齢のピークである世代に多いことから
小さい子どもを残したまま亡くなる母親も多く、
「マザーキラー」とも呼ばれている病気です。

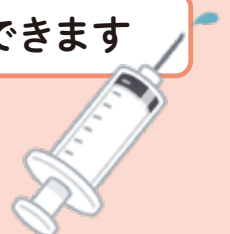
子宮頸がんは

性交渉によるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因です

性交渉の経験がある女性の約5割～8割はHPVに感染しているといわれ、性交渉を経験する年頃になれば誰でもHPV
に感染する危険性があります。HPVに感染しても、多くは自然に消滅しますが、感染が続いたり繰り返されることで、
前がん病変(がんになる手前の状態)になり、さらにその一部ががんになります。

ワクチンを接種することで、HPVの感染を予防することができます

HPVには150種類以上のウイルスの型があり、そのうち16型と18型が子宮頸がんの原因の50～70%
を占めます。ワクチンを接種することで、HPVの16型・18型の感染を防ぎ、HPVの感染や前がん病変を
予防する効果があります。



小学校6年生～高校1年生の女子は、 **無料**で予防接種が受けられます！

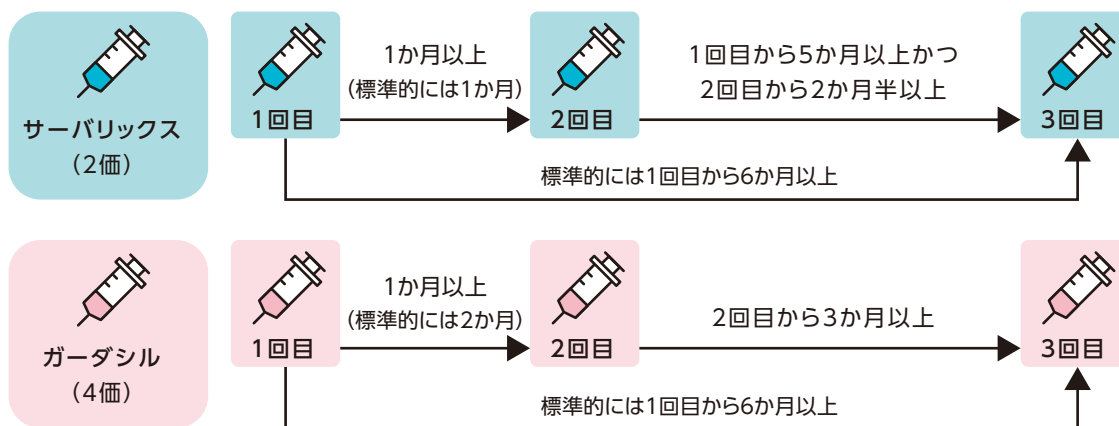
HPVは性交渉により感染するため、性交渉を経験する前に接種することが最も効果的です。
定期接種の対象期間（小学校6年生～高校1年生相当の間）であれば、無料で接種できます。



子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）の定期予防接種

対象者	小学校6年生～高校1年生相当の女子（標準的には中学校1年生の間に接種） ★無料で受けられる期間は高校1年生の3月31日までです。 対象期間以外の接種だと、実費で1回あたり約1万6千円、3回で約4万8千円かかります。
方法	筋肉内注射
接種場所	市内定期接種取扱医療機関（市ホームページに掲載）にて個別に接種
ワクチン	■ サーバリックス（2価） } <u>どちらか一方のワクチンを3回続けて接種しましょう</u> ■ ガーダシル（4価）

【接種間隔】



3回の接種には標準的に6か月の期間がかかります。

年度内（3/31まで）に接種を完了するには、
1回目の接種を9月30日までに開始する必要があります。
期間に余裕をもって接種を開始しましょう。



豊中市保健所公式キャラクター
「とよなっカメ」

定期接種取扱医療機関については豊中市ホームページにてご確認ください

豊中市 子どもの予防接種



HPVワクチンを接種する前にお読みください

HPVワクチンの効果について

子宮頸がんの主な原因のHPV16型・18型の感染を予防します。

海外では既に子宮頸がんワクチンが広く普及しており、ワクチン接種により子宮頸がん患者及びHPV感染者の減少が報告されています。日本でも様々な研究により、ワクチンを接種した者が子宮頸がんを発病するリスクが接種していない者と比較して低下しているとの報告があります。

HPVの16型・18型以外の感染は、基本的には防ぐことはできません。

予防接種に伴う副反応について

ワクチンは医薬品です。HPVワクチンに限らず、接種に伴う副反応が発生する可能性があります。予防接種の際は効果と副反応について理解し、接種してください。



HPVワクチンを接種した後は…

ワクチンを接種後30分は、医療機関にて背もたれのある椅子など体を預けられる場所に座って様子をみてください。また、接種した当日は激しい運動を避けましょう。

起こるかもしれない体の変化

	サーバリックス(2価)	ガーダシル(4価)
頻度10%以上	注射した部分の痛み・腫れ、赤み・かゆみ、胃腸症状(悪心・下痢等)、関節痛、頭痛、疲労感	注射した部分の痛み・腫れ、赤み
頻度1～10%未満	発疹、じんましん、注射した部位のしこり、めまい、発熱	注射した部分の痒み・出血・不快感、発熱、頭痛
頻度1%未満	注射した部位の知覚異常、しびれ、脱力感	注射した部分のしこり、四肢の痛み、筋骨格硬直、下痢・腹痛
頻度不明	四肢の痛み、失神、リンパ節症等	疲労・倦怠感、筋肉痛・関節痛、失神、嘔吐等

痛みについて

…… ワクチンを接種した後に、注射した部位の痛みや腫れが多く報告されています。特に子宮頸がんワクチンは筋肉内注射のため、痛みを感じる人が多いですが、その症状は一過性であり、ほとんどが数日間で回復します。

失神について

…… 緊張や恐怖、注射の痛みをきっかけに、心拍数や血圧が低下して失神することがあります。(血管迷走神経反応といいます)
失神による転倒やけがを防ぐために、接種後30分間は医療機関にて背もたれのある椅子等体を預けられる場所に座って様子をみましょう。
通常は、横になって安静にすることで回復します。

ワクチン接種後の多様な症状について

ワクチンを接種した後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動(体の一部が勝手に動いてしまうこと)などを中心とする多様な症状が起きたことが報告されていますが、この症状は機能性身体症状(原因が特定できない何らかの身体症状)であると考えられています。この症状はHPVワクチンとの因果関係があるとは示されておらず、また、HPVワクチンを接種したことがない方においても同様の多様な症状がある人が一定数いることが明らかとなっています。

まれに起こる重い副反応

- ・アナフィラキシー:呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー
- ・ギラン・バレー症候群:手足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気
- ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM):頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気

予防接種健康被害救済制度

重篤な健康被害が発生し、予防接種が原因と認められた場合、国の制度により医療費助成等の救済を受けることができます。

気になる症状が出た場合は、すぐに接種医療機関へ相談してください

定期接種の積極的な接種勧奨の差し控えについて

HPVワクチンについては、平成25年4月1日より、定期接種として実施しているところですが、厚生労働省から「副反応の発生頻度がより明らかになり、適切な情報提供ができるまでの間、積極的な接種の勧奨を差し控える」との通知を受け、同年6月14日より、積極的な接種勧奨が差し控えられています。

国内外の調査・研究の結果や世界保健機構（WHO）の見解について

HPVワクチンを接種することによる多様な症状について、世界中の多くの調査・研究において、ワクチンとの因果関係は示されていません。

WHOはHPVワクチンの有効性・安全性から、積極的な接種を推奨するとの見解を出しており、子宮頸がんはワクチンで予防され、早期発見と効果的な管理をされうる限り最も予防可能かつ治療可能ながんであるとしています。

豊中市より皆様へ

子宮頸がんは、予防接種で予防できる病気です。現在、積極的な勧奨はしておりませんが、接種を希望される場合は、定期接種の期間であれば無料で接種することができます。接種される場合は、予防接種の効果・予想される副反応等について保護者及び接種する本人も理解したうえで接種してください。予防接種予診票が無い場合は、取扱医療機関及び豊中市保健所にて配布しておりますので、お問い合わせください。



豊中産婦人科医会会長
田坂クリニック 産婦人科・内科
田坂 慶一

子宮頸がんは定期的検診とワクチンにより、防ぐことができます。子宮頸がん検診受診者は徐々に増加していますが、いまなお欧米の水準にははるかに及びません。一方、性交渉の若年化に伴い、子宮頸がん、および初期病変の発症も若年化しています。

現在、HPVワクチンは世界各国で接種されており、男子に接種する国もあります。当院でも2013年以前は多くの女子中学生に接種いたしました。その後、HPVワクチンの積極的な勧奨が控えられ、接種率が低下していることは誠に残念です。このことは諸外国から問題視されています。このままですと彼女らの将来が心配になります。

今後多くの女性がHPVワクチン接種と子宮頸がん検診の実施により、この疾患から解放されることを望んでいます。



大阪大学大学院教授
(産科学婦人科学教室)
木村 正

HPVワクチンは、今や世界100以上の国・地域で公費助成・定期接種のプログラムが組まれ、定期接種制度の下3,800万人以上が接種を受けています。このワクチンは筋肉注射で、大きくなってから接種するので、「痛い」という訴えをよく聞きます（うちの娘二人も痛がっていました）。痛みもきっかけとなり得る多様な症状の出現が日本で社会問題になりました。しかし、ワクチン接種と多様な症状の因果関係は証明されておらず、また、早くに接種を開始して接種率が高い国々からの報告から、ワクチン接種の歴史がもう少し伸びると浸潤子宮頸がん（子宮摘出などが必要）の罹患率まで減少すると考えられています。

保護者や実際に打たれるお嬢さん方におかれましては、このリーフレットで子宮頸がんやHPVワクチンをよくご理解いただいた上でご決定いただきたいと思います。

20歳になったら、子宮がん検診を受けましょう

HPVワクチンは、全ての子宮頸がんを予防することはできません。ワクチン接種（一次予防）に加えて、子宮がん検診を受けることで前がん病変を早期に発見し、重症化を予防する（二次予防）ことが大切です。豊中市では、20歳以上の人に子宮がん検診を実施しています。ご自身の健康管理のため、20歳になったら必ず受診しましょう。

お問合せ先

豊中市保健所 保健予防課 〒561-0881 豊中市中桜塚4-11-1 電話：06-6152-7329 FAX：06-6152-7328